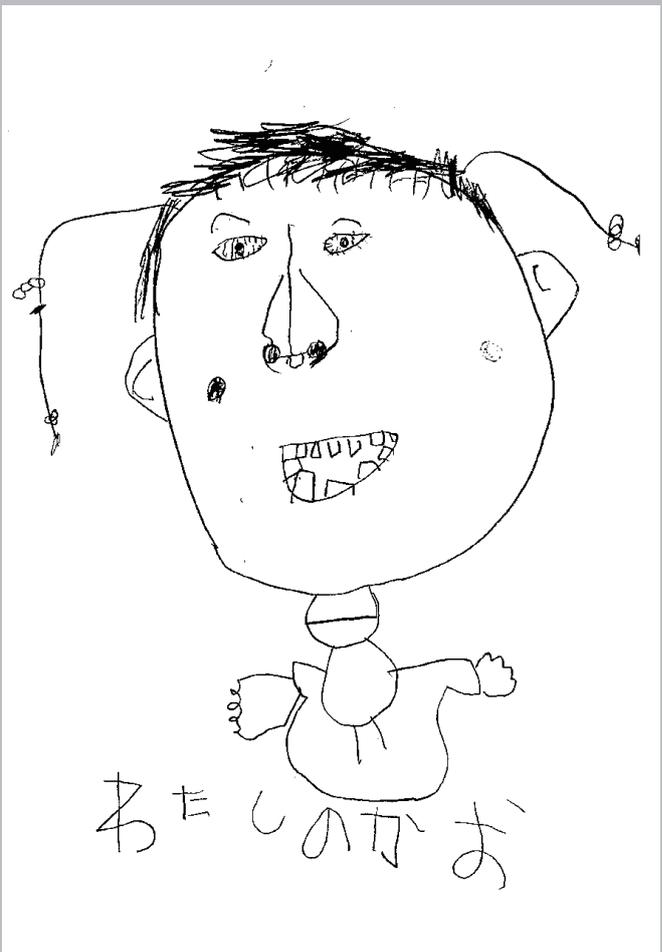
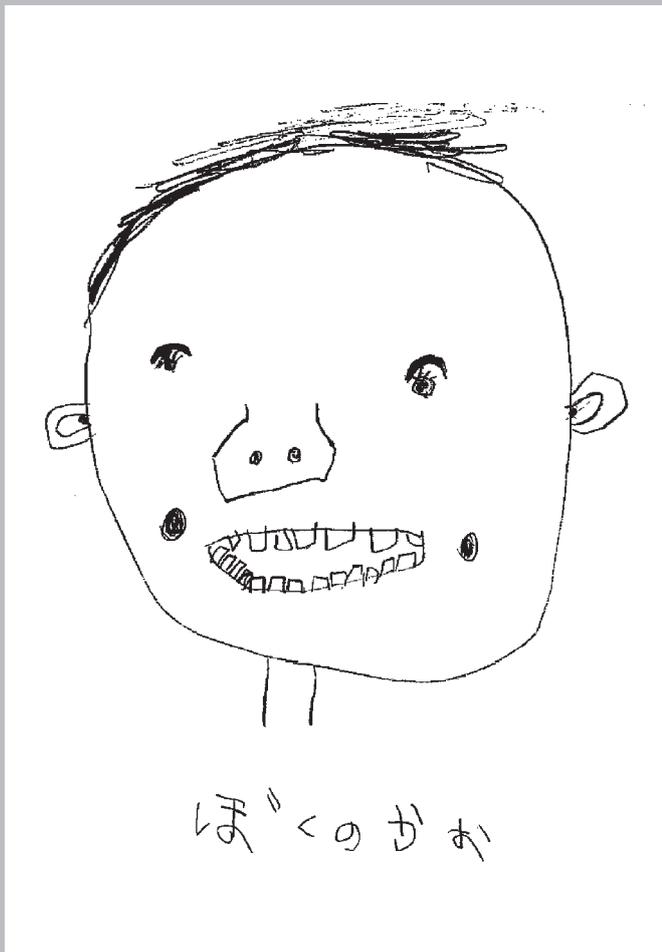


保育北九州

平成25年7月1日
発行 北九州市保育所連盟
〒805-0019 北九州市八幡東区
中央2丁目1-1
(レインボープラザ5F)
電話 (093)661-2153番
発行人 平 沢 茂
編集人 日 野 真 人

2013 172



(5歳児の作品)

かがみをみてかいたよ!

〈提供 八幡東支部〉

表紙	1
視点・保育課 新任あいさつ	2~3
二人三脚	4~5
研修報告	6~7
雑感・編集後記	8

待機児ゼロ作戦の背後で 軽視される子どものいのち

視点

四月一日で待機児童ゼロを達成した横浜方式が注目され、総理の全国に広げたいという言葉を始め、これに続こうとする自治体の動きが報じられている。確かに待機児解消は緊急課題であり評価されるべきであろうが、数の確保のために子どもの発達を保障する基準が緩和された独自の基準や株式会社への参入増加によるものとすれば強い危惧の念を抱く。

アエラの四月八日号でも「ゼロ作戦の背後で軽視される子どもの命」について認可外の事故発生が認可保育所の二十倍と報じ、六月六日の朝日新聞でも認可外保育所の事故死六十四人とある。

又、四月十一日の週刊文春では、以前から子ども福祉が営利目的のビジネスになってはいけないと論じ続けている猪熊弘子氏が「劣悪保育所で命を落とす子どもたち」と問題提起をしている。

昨秋、保育通信に掲載された同氏の「死を招いた保育から見えてくるもの」でも、かつて「ちびっこ園」グループで二十一年間に二十人もの子どもが命を落とした事件に触れているが、その背景に極限まで人件費を削り利益を追求する

保育課 新任あいさつ



北九州市子ども家庭局保育課
課長 本 脇 尉 勝

こんにちは。四月一日付で保育課長に着任いたしました本脇尉勝です。よろしくお願いたします。

保育課に来る前は、産業経済局総務課長、緊急経済・雇用対策室次長など、産業経済局に連続して五年間いました。市役所に入ったのは平成元年で、今年で二十五年目になりました。その半分以上は、産業政策、産学連携、新産業振興など、経済関連の仕事をしてきました。保育課は今回が初めてですが、実は福祉行政自体が初めての経験です。異動内示をもらったときは、本当にびっくりしました。

着任後三ヶ月ほど経ちましたが、保育課の印象は、「こんなに大変な職場だったのか」というものです。また、これまでの「イケイケ!」「何でもあり」の経済の世界と比べて、国の規制や通知が多いことにも驚かされました。早く仕事に慣れるため、優しい保育士の課長、係長さんたちに励まされながら、現在猛勉強中です。

保育との個人的な関わりとしては、わが子二人が、小倉南区の私立保育園に五年半ほどお世話になりました。下の子は、生後半年ぐらいから預かってもらいました。二人とも大学生になって、私の子育ても終わりに近づいています。これまでの恩返し気持ちは込めて、本市の子どもたちのためにがんばりたいと思います。

さて、話は変わりますが、私は若い頃、周りの方に「体育会系」と言われていたようです。いい意味か悪い意味かはわかりませんが。その理由は、恐らく、私が趣味で剣道をやってきたからだだと思います。小学校三年生のときに初めて竹刀を握って以来、途中、何度かブランクがありますが、細く長く続けています。

現在、教士七段で、まだまだ修行の身ですが、市役所剣道部と北九州市立大学剣道部の監督をさせていただいています。八月に市制五十周年を記念して本市で行われる「西日本都市職員剣道大会」に向けて稽古に励む傍ら、パワハラ、セクハラに気をつけながら、全国大会出場を目指して大学生とともに汗を流しています。

保育の世界は、ご存知のとおり、平成27年度から新制度に移行の予定で、これから多くの準備を進めなければなりません。新参者の私には本当に重責ですが、北九州市の子どもたちの未来のために、少しでもいい制度を作っていきたいと思っています。皆様方に色々と教えていただきながら、がんばってまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。



指導係長 柴田 真行

このたび、平成二十五年四月一日付の人事異動により、秘書室の梅本副市長秘書担当係長より保育課指導係長で参りました柴田です。よろし

経営方針があったと述べ、現在も変化のない現状を憂いている。

保育の質の確保を唱えながら、数の解消が優先される政策では、私たちが訴え続けている質の担保は望めない。

参入を目指す企業は、「もつと基準緩和を」と求め、質への要求が高まると経営難を理由に撤退することも懸念される。その事実が発生したことも記憶に新しい。

「子どもの現在が日本の否 地球の未来」

とし、人間の根っこを育てる保育という語を魂として「質」を重視する我々の主張は既得権を守るためと一蹴するマスコミも少なくない。又、この状況に便乗する「次の一手は介護事業で」とか「保育士獲得競争の激化」等の経営セミナーや対応伝授などのFAXが次々に送付されて来る。

二年後スタートする新制度に向けて始められた「子ども・子育て会議」では、是非「いのちを守り、心を育む保育」という語が養護と教育を一体化したものである」という、これまで主張し続けている乳幼児から就学まで連続的に行われるもので、「保育」と「学校教育」を分断することのおかしさと、認可保育所の増設こそ保育の質を確保する道であることを、しっかりと論じて欲しいものである。

藤岡 佐規子

くお願いいたします。

まず、私の経歴を紹介させていただと、平成五年四月に市役所に入職して、最初の職場が八幡東区役所でした。区役所在籍三年のうち、二年間は保育所入所担当でした。その次の職場が保育課で、ここでは三年間、保育係として保育料や入所関係を担当していました。ちなみに在課当時、児童福祉法が改正され、措置制度が保育の実施に改正されることで、残業の多かった記憶があります。

ちなみに、当時は清田保育係長（現・保育所連盟事務局長）の部下でした。

それから十数年経ちますが、今は二児の父でもあります。息子二人は、保育所でお世話になっていきます。私自身も保育所での運動会、生活発表会などの行事には出席していきます。先週の土曜も保育参加してきました。一歳の息子は私が預けて帰ると思ったようで、私から離れずほぼ抱っこされていました。

今は、仕事以外はかなり子育てしているつもりです。息子二人のお風呂は毎日私が入れています。妻の仕事の都合によっては、私も送迎しています。ただし、送迎は時々なので、何度か弁当箱を持って帰るのを忘れ

ました。

仕事で市内の保育所に伺わせてもらうことがあります。子どもの笑顔を見ると、仕事の疲れも癒されます。一方で「子どもたちのためにも、しっかりとやらない」という思いにもなります。そして、つい「うちの子と同じくらいだなく」「来年はこんな感じになるのかな」とか、若干保護者目線で考えたりもしています。

着任して二カ月あまり経過しましたが、私が以前いた頃から制度が変わったものも多々あり、まだまだ勉強させてもらうことばかりですが、頑張つてまいりますので、今後とも、よろしくお願いいたします。



子 係長担当指導栄養
響 渡 辺

はじめまして、四月より栄養指導担当係長として保育課に参りました渡辺と申します。私は、栄養士歴は30年を越えて長いのですが、保育課の仕事は初めてですので、まだわからないことも多く、皆様方には色々

とご迷惑をおかけしております。

今まで、区役所、保健所、病院等に勤務し、栄養指導や、給食管理などの仕事をしてきましたが、今回、未来を担う可愛い子ども達の食育や、給食に関わるお仕事をすることができ、とても楽しみに思っています。

すでにそれぞれの保育園で、野菜の栽培やクッキング保育など、ユニークな食育活動が行われているようですが、更に広がり、レベルアップしていけば良いなと思っております。

思えば、私も、三人の子ども達が保育園のお世話になりましたが、今では、親の言うことなど少しも聞かない大学生、高校生となりました。あの頃は仕事と子育てと、とても大変だったけれど、子ども達は可愛かったなあと懐かしく思うこの頃です。

現在は、食物アレルギーのことや食中毒予防また食品の安全など、給食の現場も厳しいと思いますが、保育所給食を通して、食べることが大好きで心も身体も健康な子ども達に育つように、少しでもお役に立てるように頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



好評連載の「二人三脚」第六回目は小倉南支部の支部長、藤井英和先生、同保育士会長の山崎啓子先生へ、平成二十五年五月九日に保育北九州編集委員がお話を伺ったものを編集して掲載いたしました。

聞き手・「保育北九州」編集委員
(以下・編集)

話し手・三ツ葉保育園
園長 藤井英和先生(以下・藤井)
話し手・こじか保育園

主任 山崎啓子先生(以下・山崎)
(編集) よろしくお願ひします。

初めに保育の仕事に就いたきっかけを教えてください。

(藤井) 前理事長の父親が保育園を始めたので、そこに入職したのがきっかけです。当時、大学を出たけど、就職がなく、アルバイトをしていました。



ファイルNo.6
小倉南支部

そんな時、父親が保育園を始めるということになり、児童福祉という世界を全く知らなかったのですが、「福祉施設に行つて勉強してこい」ということで児童養護施設双葉学園の西田園長先生のところに入職し、勉強したという経緯があります。そこでは二年間働いて、自園が出来たので退職しました。

自園では用務員から始めて、昭和六十一年に園長になりました。でも、実は、学生時代、教職をめざした時もあり、まあ、人の役に立つというか、こういう道もいいかなと思つた時もありました。保育の道に進んでなかったら、学校の先生かな(笑)

(山崎) 私は独身時代、正看護婦(師)

として、一生勤めていこうと自分なりに思っていました。ところが嫁ぎ先の義母から「保育園をつくるから一緒にしてね」と言われたのでちよつと手伝うつもりでいたところ、「資格も取つたら」と言われ、保母(保育士)になり、今に至つたということです。

姉達は教師や保育士になつて「先生」と呼ばれる仕事に就いていましたが、私は、7人きょうだいの末子で甘えん坊なので「先生」と呼ばれる器ではないと思つていました。それに、なりたいと思つてなつた看護婦(師)ですから、なかなか踏ん切りがつかせませんでした。けれども、もともと人のお世話や人と話をするのが好きでしたし、子どもはかわいいので、今では「福祉」という面で、同じだと思つています。

(編集) それではこの道に進んで良かったと思う事を教えてください。

(藤井) 苦労も多いのですが、よかったのは、子ども達が小学生、中学生になつていく、その成長した姿を見ると、嬉しいなあと思います。卒園した子が「この園が良かったか



ら」と親になつて、再びうちの園に子どもを入園させてきた時は、本当に良かったと思います。それと、保護者から三ツ葉保育園に入れてよかったと言われた時が一番(笑)でも、やっぱり子ども達と花や園の畑に野菜を植え、実つた作物と一緒に食べる…食育ですかね。子ども達とかかわることが、僕は今、一番うれしいですね。

(山崎) 子どもの屈托のない笑顔をもらえることが幸せですね。こちらが笑顔を向けると笑顔を返してくれる。心がほつと



和みます。保育園も、もう三十八年目になりますので、卒園児が父、母となって、再びこの園を選んでくれることやおじいちゃん、おばあちゃんと懐かしいねと昔話に花が咲くことも嬉しいですね。(編集) 休日はどのようにお過ごしですか。

(藤井) 休日は、庭や畑の手入れをしたり、どうかしたら昼から飲んでいる時もある(笑) おいしいお酒ですよ。ドライブも好きです。お風呂は嫌いだけど、温泉は好きなのでドライブがてら行きます。今は、

孫も2人いるから、孫が来て、本気でけんかしながら遊びます。来たらさわがしい、帰ったらさみしくなるし、まあ、一緒にあって楽しんでいきますよ(笑)

(山崎) 日頃、保育園が閉園する十九時まで仕事をしているので、休日は家のことをすると決めています。テレビをのんびりと見られるときは、見るんですけれど、孫が来る時もあるって、そんな日は嬉しいような、大変のような……(笑)。(編集) ストレス解消法や趣味はありますか。

(藤井) 趣味は畑仕事と釣りかな。畑で出来たものを子ども達と一緒に採るのが楽しみです。自分たちが植えて収穫したものと違うのはやっぱり子ども達もうれしいはずだし、僕らもおいしいって言ってもらったら、うれしいかな。

(山崎) ストレス解消法は一人でのショッピングです。大きいサイズを探さねばなりませんから(笑) あちらこちらを見て回るのでショッピングは一人がいいのです。そういうときは、主人は留守番です。(笑) (編集) 意外な一面はありますか。(藤井) 若い頃、トランペットを吹いていました。音楽が好きなら、

ので、音大に行きたかったけれど、「それで飯は食えんぞ」なんて、親に反対されたので断念しました。今はさし歯になつて出来ない(大笑い)ですよ。トランペットは、押さえないと高音がでないでしょう。その為に歯をけずり平たくしたら弱くなって伊勢エビのつのを食べる際折れてしまったんですよ。本当は、トランペット吹きで東京へいく予定だったんです。(大笑)

(山崎) 意外な一面はないのですが、昔はやや痩せていました。(笑)

(藤井) 昭和五十三年だったか、七区から一人ずつ保育士の代表を出していただいて、私が、教えて一緒にしたんです。私は学生時代、バトントワリングをしていたので、簡単な振りなら回せますよ。(笑) 今でも子ども達のマーチングの指揮は、私が教えているのですよ。

(編集) それでは座右の銘は何でしょうか。

(藤井) 「正直であれ」ということです。自分は嘘を言わない、つけない性格です。隠し事が出来なくて、だからいつも、嘘偽りは言っていない。やっぱり正直に生活すると言うこ

とが、一番です。

(山崎) 私は「いつも笑顔で」と思っています。子どもにニコツと笑うと、笑い返してくれますし、怒った子どもにもニコツと笑うと、次第に落ち着いてきます。ですから、笑顔でいつもいられるように出来るだけ、穏やかな気持ちでいるようにしています。もともとあまり「怒る」ということが少ないのですけれど、これで長生きできればいいなと思っています。(笑)

(藤井) 以前はよく太刀魚釣りに行っていました。水俣の湯の児温泉です。船も川釣りも酔ってダメだけど、あの太刀魚釣りの時だけは船酔い止めを飲んで、そこまでも行きたくなるのですよ。それほど面白いのです。今年は、ぜひ釣りの好きな孫と釣り旅行に行きたいと思っています。

(山崎) 家族が、同じ職場なのでなかなか夏休みを揃ってとるのが難しいでしょう。還暦を過ぎたころから、足腰が立つ内に、一年に一度は家族で旅行に行きたいと思ひ海外へ。(笑)

研修報告

カウンセリング研修に参加して

五月二十九日に行われた、北九州市保育士会の研修会に参加させていただきました。

「カウンセリングの基礎を学ぶ」信頼される保育士をめざしてと題して植田寿之先生が、対人援助の技術を事例に挙げながら分かりやすく教えてくださいました。カウンセリングで大切なのは、安心できる関係を提供すること。信頼関係を築く援助者の態度についての話がありました。まず大事なことは、秘密保持として、別室で話すなどの配慮が必要であること。相手の気持ちを分かろうとすること。その気持ちが相手に伝われば、相手も援助者に気持ちを伝えようと、又、何度もその繰り返しにより、相談者が自分の気持ちの状況が掴め、客観的に見つめることができ、自分で見通しを立てられるようになるということでした。そして、援助者自身の感情や価値観は脇に置き、相手側にとって、背景・考え方のメカニズムを知ろうとすることが大切であるということでした。相談者は葛藤があり、どうして



いかならない状況であり、それをあるがまま受けとめる。それは決して言いにならないのではないということ。ここで大切なのは、話を聴く技術をもって相談者から引き出していく、混

を一緒になって整理していくということでした。他には、決して裁かないや一般論で片づけけない。あくまでも側面から援助する。問題解決は当事者がしていくという、七つの原則を教えてくださいました。これは、講義の中の一部でしかありませんが、対人援助においては、大事な事をたくさん学びました。今回学んだことを、保護者の方との信頼関係を築きながら、毎日の関わりの中で活用していきたいと思えます。

さかい川保育園
島田幸世

第56回全国私立保育園研究会(宮崎大会)

平成二十五年六月五日から七日までの三日間に開催された研究会に参加させていただきました。子どもたちの健全育成のために子育ての原点を求めて「何を望むか」「何が出来るか」「何を求めるか」をテーマに行われ、初日は桑水流三兄弟と石井崇章さんの宮崎民謡で迎えられ、素晴らしい歌声と共に始まりました。基調報告では保育を取り巻く動向と情勢についてのお話がありました。特別公演では「足美人」からだの基礎は足もとから」と題し、医師の永峯由紀子先生から靴の選び方、歩き方など足がしっかりとしていなければ、バランスの良い体を保てないということでした。また、足の病気になるということも聞くことができ、人の土台は足から成り立っているのだと感じました。

二日目の分科会では第三分科会の「子どもが子どもらしく生活する保育環境とは」をテーマにした実践発表を三か所の保育園が行いました。安原先生に助言を頂きながら進行していき、「自然の捉え方」「異年齢児保育」「保育士の共通理解」についてグループ討議が行われました。

保育士の共通理解として、職員間の年齢差に伴い、その差が認識の差にも表れ、保育経験が五年未満の職員や十年未満の職員の意見を取り入れる雰囲気作り、また未満児と以上児で分かれて会議を行い、そ



れから意見交換をすること。また、朝のミーティング、ボードの活用などが上げられていました。他園の話も聞きながら、自園での取り組みと子どもの姿を思い浮かべながら、改善できる点がないかなど見直すことが出来ました。

最終日の記念公演では「女将の奮闘記」と題し、花田景子さんよりお話頂きました。この話の中でお弟子さんにもご自身の子育ての中でも「飽きられない」ことを重要視され、女将さんとしての苦労やうれしさなど普段では知れない話を聞くことが出来ました。

この研修を通し、子どもにとって人や物の環境が大切であることを再認識したと共に自分自身の保育士としての在り方を見直し、子どもの発達にあった援助をしていけるよう日々質の向上を目指していきたいと思えました。

大鳥居保育園
川添祥治

リーダー研修会に参加して

六月十八日、門司港ホテルにてリーダー研修会に参加させて頂きました。

北野久美保育士会長の「今年度の保育のテーマは真と新としました。揺るがない真を大切に、今起ころうとしている新に目を向けていきましょう。私たちは、子ども達のために真を譲らない心が大切です。魂一つにして保育をしていきましょう。」の挨拶で研修会が始まりました。

午前中、北九州市子ども家庭局保育課 保育指導担当課長 河渕洋美先生による保育帳票記入についての講義がありました。保育帳票記入要領を一つずつ確認しながら説明、補足して頂きました。要領はチームで保育していくための材料として使い、園独自のものにしていくことが大切であると学びました。

グループ討議では、記録のとり方や、指導上の悩みや工夫について話し合いました。お互いに自園の悩みや意見を出し合い、他園の事を学べる有意義な時間となりました。

午後からは保育士会名誉会長藤岡佐規子先生より「乳幼児期に育てておきたいものは？」確認しておきたい「保育」という語—



という語—というテーマで講演を受けました。平成二十七年年度施行の新制度では保育という語が大きく変わり、養護と教育が一体となった「保育」から一時預り事業になり、必要な保

護を行う場となることへの矛盾を、「保育」という用語の歴史「保育」という用語を用いた理由、「保育」の用語を幼稚園が「教育」とした経緯等を基に熱くお話して頂きました。保育の連続性が分断されようとしている今、子どもの育ちにとって何が大切か、子どもの視点に立ち社会へ発信していくことの重要性も学びました。又保育の質確保のための保育士の取り組み、来年四十周年を迎える保育士会への期待を私たちの心に届けて下さいました。

研修を通して、「保育」という言葉の奥深さを改めて認識することが出来ました。有意義な研修に参加させて頂き、ありがとうございました。

さかい川保育園
夜部裕子

各支部名物

小倉北支部

小倉北支部名物を二つ紹介します。その一つは、昭和五十一年の九月から発行し続けている季刊誌です。初めの表題は、「保母会だより」。



それから「保育士会だより」と変わり、現在は「スマイル」となっています。笑顔が一番！をモットーに日々子ども達と接しているという



思いからきたものです。

今年の新年号はその名の通り、所長（園長）先生方の笑顔の写真と一年の抱負を掲載しました。また毎年



テーマを決めて、『我が園のいいところ自慢』や『子育て親育て応援団』『おでかけスポーツ』等、各

園で取り組んでいる事を紹介し合っています。

編集委員は、読者が興味を持っている事をいち早くリサーチし毎号創意工夫しながら作っています。現在の紙面は、パソコンで作る全面カラーで写真も画像が良く見やすいですが、ひと昔前は編集委員が手書きをして印刷機にかけていました。作業が夜遅くまでかかることもあり苦労したと言われています。

発行当初の「保母会だより」は、今では表紙がセピア色に変わり、年代物と一目で分かります。しかしその中身は、昔から保育者の思いは一

つ。「視点はいつも、子どもたち」です。時代が変わっても保育者の思いはゆるぎないものであることを再確認できます。

今後この季刊誌が、会員同士の保育に対する思い、また情報交換や親睦を深めるものになるよう取り組んでいきたいと思っています。

もう一つは、メイン行事として小倉北支部全三十二園が協力して行う「保育まつり」です。毎回、約三百人近くの親子を集めて楽しい集いの中、地域に根付いた身近な保育所（園）であることや子育て家庭の力強い応援団であることをアピールしています。

今年の保育まつりは、市制50周年を記念して十月二十日（日）にJR小倉駅のJAM広場を中心に開かれる小倉北区のイベント「ハッピーハロウィンinコクラ」と共催して行います。例年に比べ、保育所（園）の存在と活動の現状を広く一般市民の方にもアピールできることとなり、現在、支部役員と企画委員が中心となって準備を進めています。

他の支部の方々、もし良かったら遊びに来て下さい。お待ちしております。

☆新編集委員紹介☆



今年度より編集委員になりました。未熟な部分は笑顔で補って、楽しく頑張ります。よろしくお願ひ致します。

穴生保育所

高松 久美子



編集委員のみなさんと楽しい「保育北九州」の紙面作りをしていきたいと思ひます。

深町どんぐりのもり保育所

重岡 真美子



ほくのかな (5歳児の作品)

雑感

『先輩保育士との出会いの中で得た宝物』

三月下旬、気温の上昇とともに園庭の桜が一気に満開。風に吹かれてヒラヒラと舞い散る花びらを園児とともに、追いかけていると「こんにちは、変わりな〜い」と明るい声。ふと振り向くと、先輩保育士が訪ねて来てくださっていました。

定期健康診断を終え、結果が届いた日、その封筒は、例年に比べると少し厚みがあり不安を感じつつ、封を開けると「右心室肥大」再検査の通知であった。頭は、真っ白に、心は曇っていた。私の心を察していたかのようにタイミング良い来訪であった。

先輩保育士との出会いは、二十数年前、研修や保育士会活動を通して知り合った。彼女は、五年前に体調を崩し退職。現在、週三日病院通いを余儀なくされている。退職後も生活リズムを変えず、早寝、早起きが続いているようである。また、ママさんコーラスのリーダーで意欲満々。持ち前の明るさで病気を乗り切っている姿が伝わってきた。

不規則な生活をしていた私は、早速、生活リズムを整え、早寝、早起きを続け再検査に臨んだ。心エコーを受け、二時間後に結果がでた。「異常なし」であった。今後、生活するうえで注意することを医師に尋ねると、規則正しい食事、夕食は早めに摂り十分な睡眠と軽い運動、歩く機会がなければ、毎日ラジオ体操も効果がある。生活リ

ズムを整えて下さい、と助言があった。

今年、寒暖の差が大きく、未満児クラスに感染症や発熱、病院通いをする園児が多い。入園して三ヶ月のAちゃんが三十九度の熱をだし、母親に連絡、受診を勧めた。感染症ではなく風邪だと診断され、翌朝には熱も下がったと登園し、再び熱が出ることはなかった。感染症にかかりやすい子とAちゃんの生活リズムを比べて見ると、Aちゃんはバランスの良い食事と、規則正しい生活リズムであった。

個別懇談を通して、生活リズムの大切さを伝え、送迎時には、意欲的に生活する姿をお話すると「生活を見直しリズムを整えている」との声。保護者の努力に拍手を送るとともに、共に寄り添う保育士の姿に熱いものがこみあげてきた。

先輩保育士の声掛けで、年に一度、保育士会活動をした仲間が集まり交流会をする。

話題は「育児講座のおもてなし」について。一足早い「秋」を感じて頂くとうと、実家に近い野山から、すずきや柿、アケビ、コスモス、かずら等を調達し、生け込み会場は一足早い秋。「おもてなしの心」を身近に学ぶことができ、保育士会活動を通して沢山の「宝物」を頂いた。身も心も軽やかに、明日からもまた頑張ろうと思った。

片野保育園

波多野 ひとみ

編集後記 一手紙

今春の卒園児から手紙が届いた。父親の勤務の都合で、卒園式の翌日に遠くへ引っ越して行った女の子からである。卒園前に比べると随分と上達した字で、運動会の紅白リレーに出て一番になったことや友だちがたくさん出来たことが書かれていた。担任の保育士宛に来た手紙だったが、そこには園長や副園長、そして他の職員への謝辞も述べられていた。そして「また遊びに行きます」と締めくくられていた。とても温かい気持ちになった。その女の子は卒園式の前日に「保育園に入れてくれてありがとう」と言っていた、と母親が教えてくれた。とても嬉しく感じると同時に、「本当に期待に応えられていたのだろうか」と自問せずにはいられなかった。しかし卒園していったすべての子どもたちに言いたい。「あなたに会えて本当によかった。ありがとう」と。

「保育北九州」編集長 日野真人